

## 令和4年度 文化資源活用補助金採択事業一覧

①歴史文化資源の活用につながる保存・修理事業

②歴史文化資源活用のための周辺整備事業

No	団体名	事業名	採択金額	事業内容	審査会意見
1	高取町教育委員会	高取城址櫓の鯨瓦 復元事業	¥999,000	①歴史文化資源の活用につながる保存・修理事業 高取城において実際に使用され、当時の年号が刻まれている鯨瓦を復元することで、高取城に対する歴史意識を深める。	解説パネルについて、写真やイラスト等を交えるなど、わかりやすい紹介文としていただきたい。
2				②歴史文化資源活用のための周辺整備事業 櫓に設置されていた当時の写真や解説パネル等を用いて、遺物の展示を行うことで、高取城に対する歴史意識を深める。	

②歴史文化資源活用のための周辺整備事業

No	団体名	事業名	採択金額	事業内容	審査会意見
3	奈良大和四寺巡礼の会	奈良大和四寺巡礼から繋がる中南和活性化プラットフォーム整備事業	¥3,500,000	一般の方に広く訴求するため、情報入手の手段として手軽に使用できるインターネット上で情報発信を行うためのプラットフォームを構築する。奈良大和四寺が所有する国宝・重要文化財の価値の効果的な認知度向上を図るとともに、実際に足を運んでいただくためのしかけとして、周辺の文化施設などとも連携し、周遊を促すための情報発信を行う。	広範囲からのアクセスを促す工夫を検討いただきたい。 インスタグラムなど最新のSNSを併用した情報発信を検討いただきたい。
4	桜井市忍阪区自治会	「記紀・万葉故地 忍阪」観光案内板・説明板設置事業	¥1,000,000	忍阪全域が載った「拠点案内板」4基と、国指定有形文化財である「石位寺 石造浮彫伝薬師三尊像」をはじめとした個別文化財の「説明案内板」12基の既設案内説明板について、QRコードの追加等、市内外からの来訪者にとって分かりやすい案内板・説明板へ整備する。	物語が感じられる説明文としていただきたい。 観光案内板及び説明板周辺の美化に努めていただきたい。
5	奈良市	文化財解説板製作設置事業	¥451,000	文化財の解説板5基を製作し、それぞれの所在地に設置する。日本語解説文の他、外国語表記（英語・中国語・韓国語を基本とする）と、周辺の文化観光資源を示した地図（日本語・英語）を掲載する。	

6	大和高田市	大和高田市指定文化財ほか文化財説明板整備事業	¥206,000	令和3・4年度に新規指定した市指定文化財のうち、3箇所文化財説明板を設置する。なお、解説版は多言語化対応（文化財の名称は英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語とし、解説文は英語のみ）とする。	文字の大きさに配慮し、明瞭な記載としていただきたい。
7	香芝市	志都美神社・平野窯跡群誘導看板設置事業	¥150,000	来訪者を主に今泉・平野地域に存する歴史文化資源へ誘導することを目的として、誘導看板を2基設置する。徒歩での来訪者を想定し、徒歩の場合の所要時間を記載。また、訪日外国人客のため、英語も併せて表記する。	日本語・英語以外の言語への対応を検討いただきたい。 看板にQRコードを添付し、説明文にアクセスできるようにしてはどうか。
8	三郷町	万葉歌碑・東信貴ケーブル説明板多言語QRコード設置事業	¥133,000	近鉄信貴山下駅前ロータリー広場に設置されている山上憶良の万葉歌碑、旧東信貴ケーブル車両それぞれの説明看板及び旧東信貴鋼索線軌道跡遊歩道入口に設置された説明看板の文の多言語化を行い、翻訳データを三郷町HPのデータバンクに入れ、QRコードを活用してアクセスできるようにする。万葉歌碑には併せて万葉集を音として聞けるように動画にアクセスできるQRコードも設置する。	万葉集の多言語化について、万葉集の良さが伝わるよう、丁寧に訳していただきたい。 音声動画について、歴史背景にマッチした映像となることを期待する。
9	斑鳩町	史跡中宮寺跡臨時駐車場案内看板作成事業	¥50,000	史跡整備が完了した中宮寺跡へ、車で来訪される利用者に対して、わかりやすい臨時駐車場の案内看板を作成することにより、史跡中宮寺跡への来訪者の増加を図る。	中宮寺跡への来訪者増加を促すよう、工夫していただきたい。
10	黒滝村	石の廟塔案内板等整備事業	¥315,000	地域の貴重な文化資源である「石の廟塔」について、解説案内板を設置する。「石の廟塔」の詳細写真を添付し、QRコードや多言語表記を行う。また、日本遺産としての表記も含め、周辺地域の歴史文化資源に興味や理解が進むよう誘導する。	既設案内板の風情を残すような仕様にしてはどうか。

③歴史文化資源の普及啓発のためのイベント事業

No	団体名	事業名	採択金額	事業内容	審査会意見
11	一般社団法人やまと文化フォーラム	邪馬台国物語の会会員セミナー	¥500,000	<p>巻向遺跡は、昨年発掘調査開始から50周年を迎え、これまで多くの学術成果を残してきた。この遺跡は『魏志倭人伝』に記された邪馬台国の最有力地。ヤマト王権につながる「国のはじまりの地」として、県内外の多くの人にアピールするとともに、地元のアイデンティティーの醸成を図ることを目的とし、2回のセミナーを行う。またオンライン配信も行う。</p> <p>※会員セミナーとしているが誰でも参加できる。</p>	これを機にInstagramでの発信をご検討ください。若い方の興味を喚起して今後につなげていただきたい。
12	土舞台顕彰会	土舞台顕彰会50周年記念大祭／同50周年記念事業	¥500,000	<p>聖徳太子が初めて「伎楽を少年たちに習わせた」国立劇場（芸能発祥の地）として、伝承される「土舞台」において「土舞台の碑」が建立・除幕されてから50周年となることから記念大祭、記念事業を開催する。</p> <p>土舞台顕彰会50周年記念大祭                      磨赤児/大駱駝艦 公演</p> <p>土舞台50周年記念事業</p> <p>①「伎楽」公演/天理大学雅楽部                      ②対談/磨赤児氏・天理大学佐藤浩司名誉教授                      ③講演/磨赤児氏                      ④子どもミュージカル/地元の子ども                      （地元の伝承等を基にしたミュージカル）</p>	
13	奈良を詠う、記紀・万葉合唱団	10周年記念コンサート～TEN 天 あめ～	¥500,000	<p>観客及び出演者が記紀・万葉のおもしろさを共感することを目的としている。</p> <p>記紀・万葉について小学生から90代の世代を超える合唱団で表現する。</p> <p>また、朗読と漫才風朗読（笑い飯）を行い、多角的に記紀・万葉のおもしろさを表現する。</p>	
14	NLAC実行委員会	大和墨ものがたり展	¥500,000	<p>町家物語館は大正期に遊郭として建てられ、昭和33年まで営業、その後下宿の時代を経て、平成26年に登録有形文化財になった。時代とともに刻まれた建物の「ものがたり」を見つけることができる。</p> <p>この歴史文化資源を周知・県内外からの誘客を促すイベントとして、町家物語館の特性を活かし、奈良県を中心としている書家・水墨画など「墨」を扱うアーティストを招聘し、グループ展を行う。</p>	歴史文化資源を単に場所として利用するだけではなく、その歴史文化資源の価値を理解することにつながる取り組みも取り入れていただきたい。

15	あかり祭り実行委員会	あいこいさ祭り 秋の伊勢 街道 あかり祭り	¥162,000	聖徳太子の古刹としても知られる宗祐寺を中心として、古い町並みをろうそくの灯りで照らし、当時の雰囲気再現。時代行列や神輿の練り歩きを行い、交通の要所として栄えていた頃を再現し、当時の活気を取り戻すことを目的とする。また宇陀市にある壬申の乱ゆかり地などを伝える講演会を地元の専門家を招き行う。	新規住民や若い世代に地域の歴史や伝統を知ってもらうことは大切である。学校等にも取り組みの意義を周知するなど、郷土学習、地域学習という観点から、教育の場でも伝えていただく機会をご検討ください。
16	斑鳩町文化振興財団	奈良・斑鳩歴史講座～世界 文化遺産「法隆寺」～	¥265,000	1993年12月、「法隆寺地域の仏教建造物」は、兵庫県の「姫路城」とともに日本で初めて世界文化遺産に登録され、2023年世界文化遺産登録30周年を迎える。世界文化遺産「法隆寺」を様々な観点から紹介し、未来に受け継ぐべき至宝について学んでいただく。併せて、聖徳太子ゆかりの歴史文化遺産をパネル展示にて紹介。また聖徳太子つながりから「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」まで紹介する。奈良・斑鳩の地に受け継がれてきた文化遺産を再認識していただく。	
17	歴史フェスティバル実行委員会	第11回おもしろ歴史フェス ティバル「歴史を愉し む！！」業	¥500,000	10月1日・2日、唐古・鍵遺跡史跡公園を舞台に『歴史を愉しむ』をメインテーマに、今年は「白鳳文化を彩った天武天皇・持統天皇とその時代」をテーマにした有識者の講演、「壬申の乱」の際天武天皇に神のお告げを与え勝利に導いたとされる村屋坐彌富都比賣神社がある田原本町ウォーキングや塗り絵やゆるキャラ、市町村ブースなどをで大人から子供まで楽しめる内容とする。	
18	一般社団法人高畑トラ スト	藤間家住宅へようこそ ONLINE ver2	¥500,000	令和2年以降に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症拡大の影響により発生した歴史建築公開の機会損失を補填するため、アーティストが藤間家住宅のデジタルイメージを製作し、現地とオンラインどちらも体験できるコンテンツとして発表する。	歴史文化資源を単に場所として利用するだけではなく、その歴史文化資源の価値を理解することにつながる取り組みも取り入れていただきたい。